

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

日蓮正宗 佛乗寺 住職 笠原建道
講頭 廣田正至

《目標を達成する秘訣は善き縁にあります》

立夏も過ぎ、佛乗寺のハナミズキが早くも萌葱色から深緑に変わりました。あっという間に季節は移っておりますが、皆さまにはお元気で自らの成仏と正法広布にご精進のことと拝察申し上げます。

ピカピカの新入生も新社会人も、ハナミズキの葉と同じように、順調に成長する場合もあれば、夢を胸一杯に第一歩を踏み出しても、現実の中で思い通りにならず、惑いの中で過ごし、時には黄色い葉になるのが私たち凡夫の常です。そのような私たちに、日蓮大聖人様は『松野殿御返事』で、

魚の子は多けれども魚となるは少なく、菴羅樹の花は多くさけども菓になるは少なし。人も又此くの如し。菩提心を発こす人は多けれども退せずして実の道に入る者は少なし。都て凡夫の菩提心は多く悪縁にたばらかされ、事にふれて移りやすき物なり。(御書・一〇四八頁)

と示されます。

御意を拝しますと、魚は無数の卵を産むが、成魚となるのはそのごく一部である。菴羅樹(あんらじゅ)という木はたくさんの花を付けるが、菓(このみ)となるのはわずかである。私たち人間も、菩提心といって覚りの心を得るために仏道修行に入るものは多いが、実の道に入るのがかなわないのは、悪縁に惑わされるからである、と。

新しい年度にあたり、会社や学校などで、心新に目標を掲げて一步を踏み出すことを「菩提心」と置き換えて見ますと、この御文が私たちの実生活の中にあっても、大きな指針となることがわかりでしょう。

ここで大聖人様は、思いをなしとげることができない理由の一つに、「悪縁」がある、と仰せになります。「悪縁」、すなわち悪い縁が道半ばの原因であるとすれば、反対に、善き縁にめぐりあうことで、目標を達成できることに気づきます。

『当体義抄』では、

悪縁に遇へば迷ひと成り、善縁に遇へば悟りと成る(御書・六九二頁)

と述べられます。私たちの究極の目的である仏道を成就するために、「善縁」が不可欠であることを知り、善縁を持つことこそ肝要です。

幸いにも、私たちには最高最大の善縁である本門戒壇の大御本尊を信受しております。最も難易度の高い仏に成ることさえ叶うのですから、世間法でいうところの、どのような難しいことであっても叶えられないはずはない、と固く信じて進むことが肝要です。

七百五十年を経ても、御本仏のお言葉は不滅です。故に、道半ばになったときに、この御文を思い浮かべようではありませんか。そうすれば必ず道は開かれます。思いを全うすることがかないます。

大聖人様との「善き縁」を大切に、自他の幸せを願う修行に励んでまいりましょう。

以上

『追悼』

戒名 正詣院法興居士

俗名 横川正興

平成二十七年四月八日寂 享年八十七

横川さんが大聖人様のもとに旅立たれたのは、日蓮正宗の二大法要の一つである、「御霊宝虫弘会」が奉修されていた最中の四月七日でした。総本山で訃報を聞いた瞬間、横川さんがお元気なときには、御虫払い・御大会・寛師会・夏期講習会等には欠かさずに、参詣の修行に励まれていた姿が脳裏をよぎりました。そして思いました。

お虫払いが奉修されているその日に、大聖人様がお待ち下さる霊山に旅立つことができたのは、不思議な因縁であり、御本尊様のもとに足を運ぶ修行には、凡夫の智慧でははかることのできない功德が受けられると。

もう一つ思ったことがあります。それは、お葬式はどうなるのか、という現実的な心配でした。ご承知のように、横川さんはお一人で暮らしておりました。臨終は病院で迎えられたのですが、入院するにあたって、園部さんの骨折りで、「後見人」の指定を受け、その後見人が葬儀等のことを決めることになっているからです。

心配通り、横川さんと後見人の橋渡しをした園部さんにも、「横川さんが亡くなりました」との連絡はして下さったのですが、どこで茶毘に付すのかを尋ねても、個人情報ですから教えられません、という返事でした。法律的には仰る通りで、それ以上の話を進めることは不可能に思えました。

しかし、日蓮正宗の信仰を純真に行じていた横川さんの今生の最後を、是が非でも御題目でお送りしなければ、という園部さん達の強い思いが通じ、火葬場と時間を教えて頂くことが出来ました。

横川さん、導師御本尊様のもとで、戒名を認めた御位牌を安置し、園部さんほか、講中で特に縁の深かった方々が、火葬場の炉の前で読経・唱題をして、今生のお別れをして下さったことを、喜んで下さっておりますでしょうか。

何年か前の御大会に登山されてたときに、大講堂の入り口で撮影した写真がありましたので、お櫛と一緒に入れ、また葬儀屋が職業上の善意で掛けた邪宗の数珠を、日蓮正宗の数珠に掛け替えることができたのは、住職としての役目を少しだけではありますが果たすことができたと有り難く思っております。

横川さんは頑固な方でした。また可愛いお爺さんでもありました。色々と文句を言い立てることがよくありました。しかし、その言葉の底には、全くといって良いほどに「悪意」はありませんでした。ただ、そのことがわからない人には、横川さんの言動を誤解した節もあったようです。

横川さんのように、「純粋な心」で総本山に参詣する人、大御本尊様への御供養に励む人、日蓮大聖人様に御目通りを願う人に、「悪意」があらうはずがありません。「自己中心」な信仰に陥りがちな私たち凡夫を、「御本尊様中心」の信仰に鍛え直すのが登山参詣の修行です。その修行に励んでいたのですから。この点は、私たちのお手本です。

横川さんと直接・間接とわず縁をされた皆さま。御苦労さまでした。またありがとうございました。思い起こしますと、実に様々なことがありました。今となっては、それらの一つ一つが信心修行の一つ一つであると理解できます。その修行に、功德が具わることを確信できるのも大聖人様の信仰です。

お寺は勿論ですが、総本山に参詣を怠らなかつたことから、戒名に「詣」をお贈りしました。

横川さんはお帰りの際に、いつも右手を挙げて、
「みなさん、お元気で」
と元気なさよならのご挨拶でした。

この度は、

「一足先に大聖人様のもとに行きます」

ここが、これまでと違うところです。

「来世では、みなさんのお世話をする側に回って、まっけていて下さいね。横川さん」